



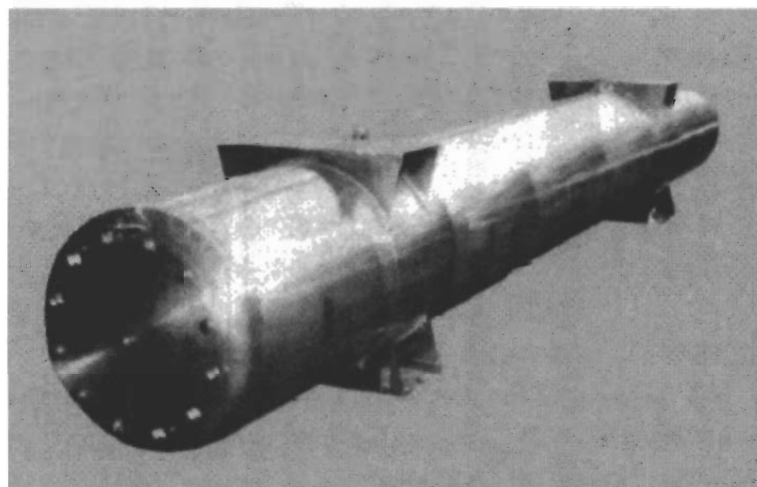
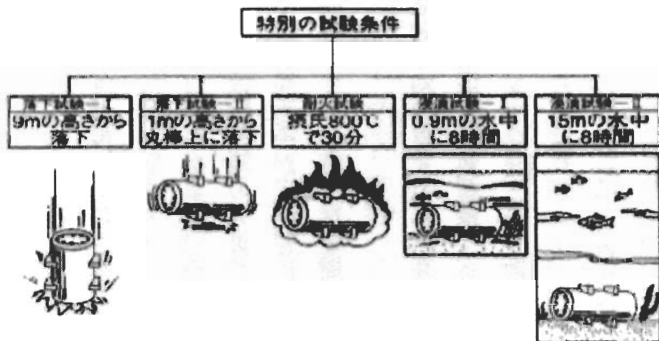
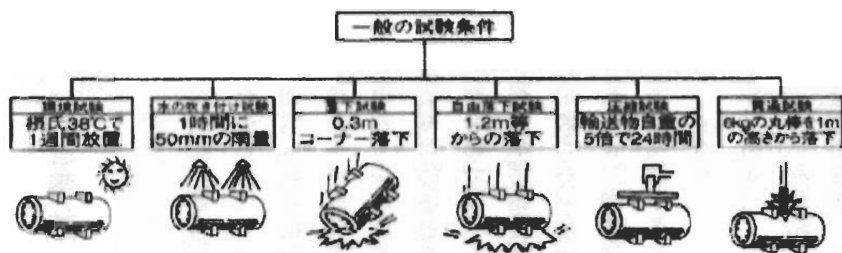
## 輸送容器の安全性は？

トラック輸送される核燃料は輸送容器に収納されます。中に入れる放射能の種類や量に応じて専用の容器が用いられ、I P型、L型、A型、B型（BM、BU型）に区分されます。軽水炉用新燃料はA型、プルトニウム燃料や使用済み燃料にはB型が用いられます。

輸送容器には技術基準が適用され、厳しい試験条件に合格していると宣伝されています。試験条件には一般と特別があり、落下試験であれば一般が一・二mの高さから、特別で九mの高さからの落下となります。特別の試験条件の九mからの落下試験は、計算上は速度約五〇キロで衝突した衝撃に等しくなります。核燃料輸送車は通常高速道路などを五〇キロをはるかに越えるスピードで走っています。特別といっても、厳しい条件とはいえません。

さらに試験の合格条件が問題です。軽水炉用新燃料に用いられるA型（核分裂性）の場合、一般の試験条件で破損せず、特別の試験条件で核分裂反応が臨界に達しないことが求められています。つまり、特別の試験条件の場合、破損して漏れ出すことは認められています。

プルトニウム燃料に用いられるB型ではさらに問題です。試験の合格条件は、放射能の種類ごとに漏洩する量がこれ以下ならOKという決め方になっています。プルトニウム239の場合、一般条件で二百ベクレル、特別条件で二億ベクレルまで漏洩しても試験に合格するのです。核燃料輸送車が交通事故に巻き込まれたら、放射能の飛散は覚悟しなければなりません。



もんじゅ用輸送容器。燃料集合体を2体収納できる